

【ボランティアを対象とした実践的研修】

ステップ1 研修内容報告

実施主体：しまね国際センター

講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	出席数
12月8日 10:30～ 12:00	島根県内日本語教室概観 「文法積み上げ型」と 「交流型」について	(財)しまね国際センター 多文化共生推進グループ リーダー・仙田 武司	8名
12月8日 13:00～ 15:30	相手の“にほんご”をよく 聴き、よく知るためには (その1)	鳥取大学国際交流センター 御館久里恵 先生	8名
12月9日 10:30～ 15:30	相手の“にほんご”をよく 聴き、よく知るためには (その2)	鳥取大学国際交流センター 御館久里恵 先生	8名
12月14日 10:30～ 15:30	「やさしい日本語」とはど んなものか(その1)	AOTS 関西研修センター 澤田幸子 先生	18名
12月15日 10:30～ 15:30	「やさしい日本語」とはど んなものか(その2)	AOTS 関西研修センター 澤田幸子 先生	11名

1. 概要

ステップ1では、「日本語を分析するチカラ」を引き出すことを目標に、相手に応じた「やさしい日本語」の使い方を学ぶための講義を4日間の日程で設定した。

2. 講座内容

まず、参加者が活動中の日本語教室の状況についてそれぞれ発表してもらった。

御館先生の講座では、「相手の日本語をよく聴き、よく知るためには」をキーワードに、「共に対話の場をつくりあげる」「聴き方チェック」「相手の日本語が伝えられていることを理解するために」などを中心に講義が行なわれた。

澤田先生の講座では、「やさしい日本語」とはどんなものか、という観点から、「みんなの日本語」の教科書分析を行った。その結果を踏まえて、外国人学習者にとって何がやさしく何が難しいのかを考察した。後半は、コミュニケーションという視点からみた「やさしい日本語」について、日本語交流活動を中心に考える場となった。

3. 講座の評価

① 受講生に対するアンケート（以下、参加者アンケートより抜粋）

- ・文法、文型中心の説明に自己満足するボランティアが多く、いつも疑問に思いながらも自分自身がそれに依って日本語を学ぶことができていた。今までは自分の為に授業をしていたように思う。今回、もっと気楽に、もっと広く学習者の立場に立って、ということをはかっていると思った。
- ・「みんなの日本語」をもっと柔らかい頭で教えることに気付かされた。地域教室のあり方が少しわかった。
- ・「学びやすい日本語」の視点に立って教える、学習者にとって必要な言葉を教える、学習者がコミュニケーションできる、等ボランティアとしての基本姿勢を教えていただいたように思う。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・1日目、2日目の講座では、様々なアクティビティに取り組みながら、「聴く」「話す」ことについてじっくり振り返ることができた。これは、長期研修の最初のステップとしてふさわしいものだったと思う。
- ・3日目、4日目の講座では、ボランティアにとっての「教えやすい日本語」を、学習者にとっての「わかりやすい、やさしい日本語」にとらえ直してみることを通じて、地域の日本語教室における初級文法の学習方法について考えることができた。
- ・コミュニケーションの視点、学習者の視点に気づかせることにポイントをおいた進め方により、「文法積み上げ型」「交流型」という教室の活動スタイルの違いを超えて、参加者が共通の意識をもって取り組むことができたと思う。

【ボランティアを対象とした実践的研修】

ステップ2 研修内容報告

実施主体：しまね国際センター

講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	出席数
1月23日 15:30～ 18:00	<u>プラン作り</u> ステップ1の内容振り返り 実習プラン作り	鳥取大学国際交流センター 御館久里恵 先生	11名
1月29日 10:30～ 13:00	<u>実習ゆうわCグループ</u> 「あります」「います」 <u>反省会</u>	(企画委員：板垣)	6名
2月1日 14:00～ 16:30	<u>実習だんだんAグループ</u> 楽しく漢字を学ぶ <u>反省会</u>	(企画委員：中園)	9名
2月2日 10:00～ 12:30	<u>実習だんだんBグループ</u> ボランティアが少なくても 楽しく実りある教室活動 <u>反省会</u>	鳥取大学国際交流センター 御館久里恵 先生 (企画委員：高木)	10名
2月2日 14:00～ 16:00	<u>振り返り</u> 実習報告。今後の日本語教室での活動を考える。	鳥取大学国際交流センター 御館久里恵 先生	8名

1. 概要

ステップ2は、「創造するチカラを引き出す」日本語教室を生き活きとさせる活動プラン作り、というテーマで、参加者自身が、自分の所属する日本語教室、もしくは他の日本語教室において実習を行なった。

2. 講座内容

実習グループを3つに分け、県内3つの日本語ボランティアグループの教室において実習を行なった。実習の前後に、「プラン作り」と「振り返り」の講座を設け、ステップ1でもお世話になった御館先生を講師に、グループでの活動プラン作り、実習が終わった後の振り返りを担当していただいた。

各グループでの実習には、他のグループの参加者・企画委員メンバーが見学という形で入り、ステップ1で学んだことを踏まえて、見学シートをもとに、教室終了後、一時間程度の反省会を行なった。

3. 講座の評価

① 受講生に対するアンケート（参加者の声から）

- ・普段なかなか、自分の授業を他人にみてもらって評価を受ける場がないので、大変参考になった。

- ・いつもは教科書の内容を教える教室型の授業しかしたことがないが、実習で交流型の授業をし、とても楽しかったので、今後も効果的に取り入れていきたい。

- ・普段は一人で教案を考えているが、同じグループの参加者と一緒に教室プランを考えることができ、大変参考になった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・ステップ1の振り返り作業に時間がかかり、肝心の活動プランづくりの時間が足りなかった。

- ・講師がプランづくりに関わる時間が少なくなってしまい、講師を有効に活用できていない感があつた。

- ・ステップ1の内容、そこで学んだ視点を忘れずに、という趣旨で活動プランづくりをスタートさせたが、なかなか今までの日本語教育観から抜け出せずに苦勞した。

- ・今回は、実際の日本語教室を実習の場として提供して頂いたため、教室を提供する側の都合、実習を担当する側の都合、学習者の都合などを調整するだけでも大変だった。しかし、参加者で知恵を絞り、協力して準備したプランで実習を行い、それを第三者に見学してもらって、コメントをもらうという機会は、これまであまりなかったため、参加者にとって有意義な研修だったと思う。

【ボランティアを対象とした実践的研修】

ステップ3 研修内容報告

実施主体：しまね国際センター

講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	出席数
3月5日 10:00～ 16:30	異なる文化を持つ人々との コミュニケーション	青森公立大学 山本志都先生	12名
3月6日 10:00～ 15:00	コミュニケーションスキル を高めるためのトレーニング	青森公立大学 山本志都先生	10名
3月11日 10:00～ 16:00	「実用文」の書き方	早稲田大学 向後千春先生	15名
3月12日 10:00～ 16:00	相手に理解してもらう話し 方	早稲田大学 向後千春先生	13名

1. 概要

「運営するチカラを引き出す」、外国人住民・ボランティア同士のコミュニケーションと仲間づくり、をテーマに2日連続の講座を2回企画した。

2. 講座内容

山本先生の講座では、コミュニケーションをキーワードに、異文化理解の観点から文化について考え、さらに、相手を思いやりながら自分のことも大切にして、自分の考えや気持ちを表現する、アサーティブ・コミュニケーションの方法を、講義・演習を通して学んだ。

向後先生の講座は、日本語教室の運営等にも関わる「実用文」の書き方、そして、自分の考えをまとめて相手にわかりやすく伝える話し方をテーマとし、実践的に学ぶ場となった。

3. 講座の評価

① 受講生に対するアンケート（以下、アンケートより抜粋）

- ・ コミュニケーションというのはとても苦手な分野だったので、参考になることが多かった。

- ・ 相対する人に対し、素直な答えを引き出すための手法と仲間作りにつながることの意義を学ぶことができて最高の講義だった。
- ・ これからどんな人との会話も楽しめそうな気がしてきた。自分の考えを吟味することもおこうと思う。
- ・ 間接的に日本語指導につながる内容と、直接日本語指導という内容があり、とても参考になった。
- ・ 文書作成、スピーチは苦手な分野だったが、講義を受け、すこし楽な気分になれた。
- ・ 実践的でリラックスして臨めた講座だった。とても楽しかった。
- ・ 頭の中でぼんやりと思っていたことを文章にする、他の人にスピーチするということはとても難しいと思っていましたが、先生のお話を聞いて、整理の仕方が少しわかり、自分でもやれそうな気がしてきました。
- ・ 自分の弱点を克服するのにとても役立ちました。
- ・ 今までは、日本人が外国人のサポートをするために必要なスキルを学ぶ講座が多かったが、今回のように、自分自身のステップアップになる講座はとてもよかった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・ 1日目、2日目の講座は、講義が中心となったが、参加者も積極的で、質問等を交えながら和やかに講義が進められた。「異文化」というものを国籍の違いに限らず多様にとらえる目を養うことができ、価値観の異なる人との関わり（学習者、ボランティア同士、地域社会、行政職員）に活かして頂けると思う。
- ・ 3日目、4日目は、それぞれの講義の達成目標が明確であり、かつ分かりやすい指導であったため、参加者は達成目標にむかって、意欲的に活動を行うことができた。
- ・ 教室活動に関する講座以外は、これまでどちらかというと日本語ボランティアの関心は低かったが、今回は長期研修に組み込んだ形で実施することで、参加を促すことができ、日頃の活動に活かせることを実感して頂けてよかった。

ポテンシャル UP 講座全体を通して

② 実施主体からの研修内容結果評価（課題）

「教室の特色ある取り組みを活かす」「受講者同士の協働による課題解決型学習を行う」「持続可能な教室活動を担っていける中核的なボランティアを育成する」という当初の目的に沿った講座を組むことができた。研修を通じて、参加者がどんどん表情豊かになって、変わっていく姿を見ることができた。また参加者からも総じて好評であったことは評価できる。

長期研修は、単発の講座ではカバーできない奥の深い講座ができるという大きなメリットがある反面、ところどころ参加できない人には、講座の意図が十分に伝わらないこともあった。

ただ、参加者が少なかったのは大いに反省すべき点である。日程設定と、参加者募集方法には課題が残る。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

当センターでは、平成14年度から5年間、「在住外国人緊急支援対策事業」に取り組み、外国人が身近な場所で日本語が学べる環境を整えようと、日本語教室開設支援を集中的に行ってきた。その結果、事業開始時に10あった日本語教室は、現在では24に増えている。

しかし、教室を安定的に継続させていくためには、多様な学習者にどう対応すればいいか、教室の運営をどのようにすればいいかといった課題も多く、その対応に苦慮しているボランティアも多い。

そこで、平成19年度からは、立ち上げ後の日本語教室のフォローアップに重点を移して事業を展開している。今後も日本語ボランティア同士の課題の共有や問題解決に向けた情報交換・意見交換の場を作るなどしていきたい。また、外国人のコミュニケーションの支援や多言語による情報提供なども充実させていく予定。

平成20年度は、特に災害時の外国人住民支援体制の整備、利用者自身が多言語で情報発信できるWebサイトの構築などについて重点的に取り組む。